

# 令和2度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（財務会計Ⅰ）	単位数	3単位	学年（コース）	2学年（総合ビジネス科）
使用教科書	高校財務会計Ⅰ新訂版（実教出版）				
副教材等	全商簿記検定最新段階式問題集1級会計 日商簿記2級 網羅型完全予想問題集 全商簿記検定模擬問題集1級会計 など				

## 1 学習目標

- ・「簿記」で学習した知識・技術を基礎として財務諸表に関する深い知識・技術を身につける。
- ・適切な会計情報を提供するための資質と能力を身につける。
- ・会計情報を活用するための資質と能力を身につける。

## 2 指導の重点

- ・財務会計に関する理論的な知識及び、実務に即した知識と技術を身につけさせる。
- ・財務指標を組み合わせて、企業の実態を総合的に分析する力を身につけさせる。
- ・会計情報の作成を通じ、責任を持って取り組む態度、社会的責任を果たす視点などを養う。

## 3 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時間	評価方法
1学期	4	第1章 企業と企業会計 第2章 企業会計制度と会計基準	38	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み
		第3章 企業会計の歴史 第4章 資産の分類と評価		
		第5章 流動資産（その1 当座資産）		
		第6章 流動資産（その2 棚卸資産・その他の流動資産）		
	5	第7章 固定資産（その1 有形固定資産）		
		第8章 固定資産（その2 減価償却）		
	6	第9章 固定資産（その3 無形固定資産）		
		第10章 固定資産（その4 投資その他の資産）		
	7	第11章 負債 第12章 純資産		
		第13章 損益計算の意味と基準		
2学期	8	第14章 営業損益の計算 第15章 経常損益の計算	44	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み
	9	第16章 当期純利益の計算 第17章 貸借対照表の作成		
		第18章 損益計算書の作成 第19章 その他の財務諸表の作成		
	10	第20章 連結財務諸表の目的と連結の範囲		
		第21章 連結財務諸表の作成（その1）		
		第22章 連結財務諸表の作成（その2）		
	11	模擬試験問題集を活用した問題演習		
	12	第23章 財務諸表分析		
3学期	1	模擬試験問題集を活用した問題演習	30	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み
	2	発展的な問題演習		
	3	総合問題		

計112時間(47分授業)

## 4 課題・提出物等

- ・単元毎の課題（その都度指示）
- ・長期休業中の課題（その都度指示）
- ・授業の取り組みを確認するための提出物（ノート、問題集、授業で使用したプリント等）

## 5 評価基準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・財務会計の学習に積極的に取り組もうとしているか。</li><li>・企業会計の意味・役割や制度、財務会計の機能、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどに興味を持ち、積極的に取り組もうとしているか。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・なぜそのような会計処理を行うのかなど、みずから思考を深めることができる。</li><li>・財務指標から企業の実態を推測することができる。</li><li>・企業の財政状態や経営成績の良否を判断することができる。</li><li>・各種会計処理から会計情報として企業の実態を表現することができる。</li></ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・報告式の損益計算書を作成することができる。</li><li>・報告式の貸借対照表及び株主資本等変動計算書の作成ができる。</li><li>・財務諸表から収益性・安全性・成長性の各比率を計算することができる。</li><li>・連結財務諸表の作成ができる。</li></ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・資産・負債・純資産の考え方や損益計算の内容を理解し、会計処理及び損益計算ができる。</li><li>・会計法規をもとづいた適切な会計処理ができる。</li></ul>

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・課題の提出状況及び課題の内容
- ・授業の取り組み状況
- ・その他、授業進度に応じて実施した小テストの結果 など

1年間の評定は1学期から3学期の年間を通じて上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

授業内容の定着および理解度ををはかるため、日商簿記検定2級、全商簿記検定1級会計を受験します。

## 6 担当者からの一言

- ・『簿記』の知識・技術が基本です。授業では『簿記』の教科書も併せて準備しましょう。
- ・問題演習では答えを確認する前に教科書で該当項目を調べることが大切です。
- ・毎日の「復習」により知識・技術が定着します。その日の授業内容をその日のうちに復習するようにしましょう。
- ・暗記する科目ではありません。企業会計の仕組みを理解することが重要です。

# 令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（原価計算）	単位数	3単位	学年（コース）	2学年（総合ビジネス科）
使用教科書	原価計算新訂版（実教出版）				
副教材等	全商簿記検定最新段階式問題集1級原価計算 全商簿記検定模擬問題集1級原価計算 など				

## 1 学習目標

製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を身につけ、原価情報を活用する能力と態度を養う。

## 2 指導の重点

- ・原価計算の基本的な考え方と計算方法を理解するとともに工業簿記の基本的な記帳方法を習得する。
- ・製造業の原価管理に役立つ資料を作成するための知識・技術を身につける。
- ・利益計画を作成し、経営活動を管理していくための知識・技術を身につける。

## 3 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時間	評価方法
1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章 原価と原価計算</li> <li>・第2章 原価計算のあらまし</li> <li>・第3章 工業簿記～製造業における簿記</li> <li>・第4章 材料費の計算と記帳</li> <li>・第5章 労務費の計算と記帳</li> <li>・第6章 経費の計算と記帳</li> </ul>	38	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7章 個別原価計算</li> <li>・第8章 部門別個別原価計算</li> <li>①部門別計算の目的</li> <li>②原価部門の設定</li> <li>③勘定の設定</li> <li>④部門別個別原価計算の手続き</li> </ul>		
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤部門費配分表の作成</li> <li>⑥部門費振替表の作成</li> <li>⑦製造部門費予定配賦表の作成</li> </ul>		
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9章 総合原価計算</li> <li>単純総合原価計算 月末仕掛品原価の計算（平均法・先入先出法）</li> </ul>		
	9	（夏休みの課題テスト）（1学期の復習）		
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9章 総合原価計算</li> <li>単純総合原価計算 月末仕掛品原価の計算（平均法・先入先出法）</li> <li>①単純総合原価計算表と記帳方法</li> <li>②等級別総合原価計算</li> </ul>		
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>③組別総合原価計算</li> </ul>		
2学期	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10章 工程別総合原価計算</li> <li>・第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理</li> <li>・第12章 製品の完成と販売</li> <li>・第13章 決算の手続きと本社・工場間の取引</li> <li>総合原価計算のまとめ</li> </ul>	44	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み

3 学期	1	(冬休みの課題テスト)	30	定期テスト 授業の取り組み 課題の取り組み
	2	・ 第 14 章 標準原価計算 (その 1)		
	3	・ 第 15 章 標準原価計算 (その 2) ・ 第 16 章 直接原価計算 (その 1) ・ 第 17 章 直接原価計算 (その 2)		
		・ 記帳練習 第 1 例題・第 2 例題		

計 1 1 2 時間 (4 7 分)

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の中で配布されるプリントや問題集の提出</li> <li>・ 長期休業中の課題の提出 (別途指示)</li> <li>・ 各学期の始めに課題テストを実施</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 5 評価規準と評価方法

評価は、次の 4 つの観点から行います。	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造業における原価計算および工業簿記に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>・ 自ら進んで勘定をまとめ、意欲的に問題演習に取り組んでいる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原価管理の技能から、差異分析を行い、無駄や非効率を把握することができる。</li> <li>・ 原価情報、会計情報から得られた問題点から、解決策を見いだすことができる。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算をおこなうための技能が身についている。</li> <li>・ 原価管理に役立つ資料を作成することができる。</li> <li>・ 利益計画に役立つ資料を作成することができる。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造を理解している。</li> <li>・ 各種原価計算の方法別に、その特徴を理解している。</li> <li>・ 製造業の決算の特徴について理解している。</li> </ul>
<p>このため、評価は具体的には次のものを対象とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年 5 回の定期考査</li> <li>・ 課題の提出状況及び課題の内容</li> <li>・ 授業の取り組み状況</li> <li>・ その他、授業進度に応じて実施した小テストの結果 など</li> </ul> <p>1 年間の評定は、1 学期から 3 学期の年間を通じて上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。</p> <p>授業内容の定着および理解度ををはかるため、日商簿記検定 2 級、全商簿記検定 1 級原価計算を受験します。</p>	

#### 6 担当者からの一言

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『簿記』の知識・技術が基本です。授業では『簿記』の教科書も併せて準備しましょう。</li> <li>・ 問題演習では答えを確認する前に教科書で該当項目を調べることが大切です。</li> <li>・ 毎日の「復習」により知識・技術が定着します。その日の授業内容をその日のうちに復習するようにしましょう。</li> <li>・ 暗記する科目ではありません。原価計算の仕組み、工業簿記の基本構造を理解することが重要です。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（ビジネス情報）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年（総合ビジネス科）
使用教科書	実教出版 「ビジネス情報新訂版」				
副教材等	実教出版 「Excelで学ぶ全商情報処理検定テキスト」 実教出版 「全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報1級」				

## 1 学習目標

1. 業務の情報化の必要性、情報通信ネットワークの導入と運用及びデータの保護を取り扱い、オフィス業務において情報通信ネットワークを効果的に活用するための基礎的な知識と技術を習得させる。
2. ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。
3. ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を育てる。"

## 2 指導の重点

- ①ビジネスの諸活動においてコンピュータを積極的に活用し、エンドユーザコンピューティングを推進するための能力を育成すること。
- ②表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの機能を利用して、ビジネス情報の合理的な処理や自動化を図る知識と技術を習得させること。

## 3 学習計画

期	月	単元名	学習目標	時間
第1学期	4	1. ビジネスと情報 (1)情報化社会とビジネス (2)ネットワークとビジネス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代のビジネスの実例を通して、ビジネスにおけるICT活用の基本的な知識を習得させ、この科目を学ぶ目的やねらいを理解させる。</li> <li>・ビジネスと情報の関係、企業において利用されているPOS,CRM, SFA,SCM,ERPなどの業務システムを学び、ビジネスにおける情報活用の基本的な知識を習得させる。</li> <li>・ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について学び、これに主体的に対応する態度を身につけさせる。</li> </ul>	18
	5	2. 情報通信ネットワークの活用 (1)ネットワークの基礎 (2)ネットワークの管理と構築 (3)サーバ管理 (4)セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理などの技術を習得させる。</li> <li>・情報通信ネットワークを構築するためのハードウェアや有線・無線LANの概念、ネットワークアドレスやホストアドレスの設定に関する知識を理解させる。</li> <li>・ネットワーク機器の導入手順やコンピュータ等の設定手順など、システムの構築や管理に関する基本的な知識・技術を習得させる。</li> <li>・ファイルの共有やアクセス権の設定などに加えて、認証サーバの管理に関する基本的な知識や技術を習得させる。</li> <li>・セキュリティポリシーの設定やデータの保護など、セキュリティ管理やデータ管理の意義と役割を学び、ネットワークの安全性を維持するために必要な知識や技術を習得させる。</li> </ul>	
	6	3. 表計算ソフトウェアの活用 (1)集計処理 (2)オペレーションズリサーチの基礎 [Excel2007 実技演習]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート間の集計やグループ集計、クロス集計などの技法を理解させる。</li> <li>・シミュレーションやゴールシーク、ソルバーなどの技法を用い、与えられた条件下における最適の解を導き出す手法を理解させる。</li> <li>・グラフを用いたデータの分析方法を理解させる。</li> <li>・表計算ソフトウェアを利用した販売情報の分析や活用方法を理解し、マーケティングに活用する能力を身につけさせる。</li> </ul>	20

期	月	単 元 名	学 習 目 標	時間
第 2 学 期	9	3. 表計算ソフトウェアの活用 (3)ビジネス計算	・表計算ソフトウェアを利用した財務情報の分析や活用方法を理解し、財務管理に活用する能力を身につけさせる。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方と方法を身につけさせる。	30
	10	(4)手続きの自動化 [Excel2007 実技演習]		
	11	4. データベースソフトウェアの活用 (1)ビジネス情報とデータベース	・データベースの基礎的知識を理解させる。 ・データベースの設計と作成、関数を利用した報告書の作成、手続きの自動化など、データベースの実践的な活用のための知識、技術を習得させる。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法を習得させる。	20
	12	(2)データベースの利用 (3)SQLの操作		
第 3 学 期	1	5. ソフトウェアを活用したシステム 開発	・システム開発に関する基礎的知識と、基本的な開発の手順を理解させる。 ・基本設計の概要や手順を理解させ、設計の手法を習得させる。 ・外部設計の手順や概要を理解させ、ヒューマンインタフェースの設計などの設計技法を習得させる。 ・データベース設計の手順と手法を習得させる。 ・データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築する手法を身につけさせる。 ・作成したシステムのテストと保守に関する知識と技術を習得させる。	24
	2	(1)システム開発の基礎		
	3	(2)アルゴリズムの基礎		
	3	(3)表計算ソフトウェアによる開発 (4)データベースソフトウェアによる 開発		

計 1 1 2 時間 (4 7 分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ① 授業・朝学習で使用したノート・プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集・実習課題及び長期休業中の課題の提出
- ③ 各学期の初めに課題テストを実施

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
ビジネス情報を適切に管理し、分析し、活用する情報技術を積極的に身につけようとしている。 コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど、エンドユーザコンピューティングを推進する創造的な能力を身につけている。	ビジネス情報を活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報を活用、加工する技術工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いた情報の整理加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、ビジネス情報の活用ができる。	ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。 エンドユーザコンピューティングを積極的に推進する態度や能力を育成するため情報機器の導入と管理に関する知識や、データの保護とセキュリティの管理に関する内容を身につけている。
<p>以上の点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取組み (授業態度・課題提出など)</li> <li>・出席状況</li> <li>・定期テスト・小テスト</li> </ul> <p>などから総合的に判断します。</p> <p>検定取得目標 全国商業高等学校協会主催 情報処理検定 ビジネス情報1級 全国商業高等学校協会主催 ビジネス文書検定 ビジネス文書部門1級</p>			

#### 6 担当者からの一言

ビジネスに関する情報を適切に管理・分析・活用する知識や技術を習得し、ソフトウェアを利用したビジネス情報システム開発について学習します。また、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなどエンドユーザコンピューティングを推進する想像的な能力を身につけることができます。

また、学習到達度確認のため全商情報処理検定ビジネス情報部門 (9月・1月実施) と全商ビジネス文書検定ビジネス文書部門1級 (11月実施) を受験します。合格を目指して努力しましょう。

# 令和 2 年度シラバス (外国語)

学番 9 新潟県立新潟商業高等学校

教科 (科目)	英語総合A	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 (総合ビジネス科)
使用準教科書	Landmark Fit English Communication II (啓林館)				
副教材等	① 『NEWSBREAKS for BASIC English Learners』 [エミル出版] ② 『総合英語 Evergreen English Grammar 30 Lessons updated』 [いっぴな書店]				

## 1 学習目標

英語を用いて様々な文化を持つ人々とコミュニケーションをとるために必要な知識や技術を習得するとともに、国際理解の重要性について理解し、国際的な社会生活の諸活動に役立てることができる実践的な能力と態度を育てる。

## 2 指導の重点

生徒の多様な進路に対応するために、4技能を高める総合問題や発展的な言語活動に取り組み、英語の総合的な能力を養う。月に1～2回程度のALTとのチームティーチングによる授業では、Activityや英会話を中心に展開する。

## 3 学習計画

学期	考査	単元名	学習内容	時間
	中間考査	Topic 1 The Start of Reiwa Topic 2 Naomi Osaka Topic 3 Reduced Tax Rate System ..... English Grammar 30 Lessons Lesson 1, 2, 3, 4, 5	TRADITION/SPOrts/ECONOMY  ○読解のポイント  述語動詞を意識しながら英文を読み、書かれている内容を理解することができる。  .....  文の種類 / 動詞と文型 / 動詞と時制	13
	期末考査	Topic 4 Salinger's 100 <sup>th</sup> Birthday Topic 5 Plastic Straw Bans Topic 6 The Notre Dame Cathedral ..... English Grammar 30 Lessons Lesson 6, 7, 8, 9, 10	PEOPLE/ENVIRONMENT/INCIDENT  ○読解のポイント  意味のまとまりを把握しながら英文を読み、書かれている内容を理解することができる。  .....  完了形 / 助動詞	15
2学期	中間考査	Topic 7 Smart Agriculture Topic 8 Helping after Disasters ..... English Grammar 30 Lessons Lesson 11, 12, 13, 14, 15	TECHNOLOGY/DISASTER  ○読解のポイント  代名詞の具体的な内容を理解しながら読む。  .....  態 / 不定詞	15

	期末 考 査	<p>Topic 9 Bringing Back the Great Barrier Reef</p> <p>Topic 10 Japan's Empty Houses</p> <p>.....</p> <p>English Grammar 30 Lessons Lesson 16, 17, 18, 19, 20</p>	<p>ENVIRONMENT/LIFE</p> <p>○読解のポイント</p> <p>文章の論理的表現を意識しながら読む。</p> <p>.....</p> <p>動名詞 / 分詞 / 比較(1)</p>	14
3 学 期	学 年 末 考 査	<p>Topic 11 Fifty Years since the Moon Laushing</p> <p>.....</p> <p>English Grammar 30 Lessons Lesson 21, 22, 23, 24, 25, 26</p>	<p>SPACE</p> <p>○読解のポイント</p> <p>段落の構成を意識しながら読み、正確に内容を把握する。</p> <p>.....</p> <p>比較(2) / 関係詞 / 仮定法</p>	18

計 75 時間(47 分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに、総合設問集等の点検を適宜実施する。

#### 5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・国際社会における諸外国の人とのコミュニケーションに関心を持ち、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
外国語表現の能力	・英語を通して国際理解の重要性を考え、国際社会の諸問題を様々な角度から主体的にかつ客観的に考察しようとしている。 ・自分の考えについて、文章にまとめたり、発表したりすることができる。
外国語理解の能力	・様々な題材の英文を読み、要点や概要を正確に理解することができる。
言語や文化についての 知識・理解	・語彙や文法の用法を理解し、適切に使うことができる。 ・英文を読み取る上で必要な、文化や情報を理解している。

具体的には次のものを総合的に判断し、評価します。

- ・年5回の定期考査
- ・授業中に実施する小テスト
- ・平常点 (提出物、授業への取り組み状況等)

#### 6 担当者からの一言

英語総合Aでは、最新の話題について書かれた英文を読み、知ること、考えることの楽しさを実感するとともに、英文読解のスキルについて学ぶとともに英語力の総合的な向上を目指します。少し難しい内容の英文にも好奇心を持ち意欲的に取り組む姿勢が大事です。また、ALTとのチームティーチングによる授業では、Speaking やListeningに重点を置いた言語活動に挑戦する機会があります。間違ふことを恐れずに積極的に英語を用いてコミュニケーションを図りましょう。

# 令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（マーケティング）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年（総合ビジネス科）
使用教科書	『マーケティング新訂版』（実教出版）				
副教材等	全商商業経済検定試験模擬問題、教科書準拠マーケティング問題集等				

## 1 学習目標

マーケティングに関する基礎的な知識と技術を修得させ、その意義や役割を理解させるだけでなく、マーケティング活動を計画的・合理的に行う能力と態度を育てる。

## 2 指導の重点

マーケティングの意義や役割及び市場環境の変化に対応したマーケティングの在り方について理解させるとともに、効果的なマーケティングを行うための知識と技術を習得させること。経済のサービス化など新しい動向への対応、生徒の就職への配慮、さらには、資格取得への対策にあたるのみでなく、小売業・サービス業の立場からの経営管理能力の育成と社会的な必要性を考え、消費者教育と環境問題の観点にも十分配慮して学習する。学習到達度の確認のため、全商商業経済検定マーケティングを受験する。

## 3 学習計画

学期	月	学習内容	時間
1学期	4	第1章 現代市場とマーケティング 1. 現代市場の特徴 2. マーケティングの概要	26
	5	第2章 市場調査 1. 市場調査の意味 2. 市場調査の手順 3. 実態調査の方法 4. 市場調査の実習	
	6	第3章 消費者行動 1. 消費者行動と購買 2. 購買意思決定過程 3. 製品のライフサイクルと普及	
	7	第4章 販売計画 1. 販売計画と販売予測 2. 販売計画の立案・実施・統制	
2学期	9	第5章 製品計画 1. 製品計画の概要 2. 製品ミックスと製品政策 *製品開発（商品開発）	30
	10	第6章 仕入計画と商品管理 1. 仕入計画 2. 商品管理	
	11	第7章 販売価格 1. 販売価格の決定 2. 価格戦略	
	12	第8章 販売経路 1. 販売経路の設定 2. 販売経路の強化	

3学期	1	(全商商業経済検定模擬問題集1・2級マーケティングを活用し学習) 第9章 販売促進 1. 販売促進の重要性	19
	2	2. 広告 * 広告の実習 3. 販売員活動 * 販売の実習	
	3	4. ブランド 5. 信用販売 6. その他の販売促進 * 店舗の立地と設計	

計 75時間 (47分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ① 授業で使用したノート・プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集の提出
- ③ プリント・レポート・感想文等の提出

#### 5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの諸活動について関心を持ち、その知識の習得を目的として意欲的に取り組む。</li> <li>・ビジネスマンとして望ましい態度を身に付けようと取り組む。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングに関する諸問題や変遷を経済生活との関連から的確に把握し、自ら思考する能力を身に付ける。</li> <li>・マーケティングの諸問題に対し、どのような問題解決方法を用いればよいかを、的確に選択できる。</li> <li>・問題提起や解決方法を的確にプレゼンテーションできる。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの諸問題に対し、基礎的・基本的な知識と技術使い、問題を解決する方法を身に付けている。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングを学ぶ目的を理解している。</li> <li>・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身につける。</li> <li>・マーケティングを学ぶ方法を理解している。</li> </ul>

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
  - ・授業で活用する副教材
  - ・課題
  - ・学習への参加状況
- また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

#### 6 担当者からの一言

マーケティング (marketing) とは、企業や非営利組織が行うあらゆる活動のうち、「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動」の全てを表す概念である。

マーケティングの定義は様々に変遷してきているが、商品またはサービスを購入するポテンシャルのある顧客候補に対して情報提供 (情報収集) などマーケティング・コミュニケーション活動で相互学習状態を形成して購買に至らしめ、さらなるコミュニケーションのステップアップにて固定顧客化して顧客価値を高め、再購入や顧客連鎖を促進する、などの企業活動の拡大再生産 (あるいは維持) を図るための一連の行為であり、心理学、数学、社会学、経済学、そして文学・芸術等様々な知識の上から成り立つ高度なスキルである。

皆さんもこのようなスキルを身に付けられるように頑張りましょう。

# 令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科(科目)	商業(管理会計)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(総合ビジネス科)
使用教科書	管理会計(実教出版)				
副教材等	管理会計問題集 日商簿記検定2級模擬問題集				

## 1 学習目標

管理会計に関する知識と技術を習得し、経営戦略の重要性について理解するとともに、経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を養う。

## 2 指導の重点

- ・ビジネスの諸活動を主体的、合理的に遂行するために、実務に対応した会計に関する基本的かつ実践的な知識と技術を習得する。「会計」「原価計算」の授業以上に複雑化した資料活動を通じ、的確に内容を把握し、整理、分析する能力と態度を養う。
- ・会計を活用して企業の実態を的確に捉え、短期利益計画、予算編成、予算統制など管理会計に関する知識と技術を習得するとともに、企業を取り巻く環境の変化に伴って企業戦略が重要であることを理解する。
- ・企業の業績の管理や短期的な意思決定など、会計情報を経営管理に活用する能力と態度を養う。

## 3 学習計画

学期	月	学習内容	時間
1学期	4	1. 管理会計の基礎 (1) 管理会計の目的 (2) 管理会計と原価計算 2. 直接原価計算 (1) 直接原価計算と全部原価計算 (2) 直接標準原価計算	26
	5		
	6		
	7		
2学期	9	3. 短期利益計画 (1) 原価予測の方法 (2) 損益分岐分析と感度分析 (3) 利益の最大化 4. 予算編成と予算統制 (1) 企業予算の編成 (2) 予算統制	30
	10		
	11		
	12		
3学期	1	5. 経営意思決定と戦略的原価計算 (1) 経営意思決定の概要 (2) 特殊原価調査 (3) 戦略的原価計算	19
	2		
	3		

75時間(47分)

#### 4 課題・提出物等

- ・単元毎の課題（その都度指示）
- ・長期休業中の課題（その都度指示）
- ・授業の取り組みを確認するための提出物（ノート、問題集、授業で使用したプリント等）

#### 5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 企業を取り巻く社会的・経済的環境が変化する中で、経営戦略の重要性について関心を持ち、会計情報を活用して経営管理を行う知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。</li><li>・ 不明な点を速やかに解決しようと普段から心がけている。</li><li>・ 常に問題意識を持って取り組んでいる。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理会計に関する基礎的・基本的内容を身につけ、それを活用して、適切な判断（経営戦略上の意志決定）ができるような能力を身につけている。</li><li>・ 会計情報を活用し、有用な指針や結論を導き出すための方法・手法の習得をし、その能力を身につけている。</li><li>・ 問題に応じて的確に、その内容を読み取ることができる。</li></ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 問題の内容を的確に把握し、経営判断に必要な資料を作成し、経営戦略における意志決定ができる。</li></ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理会計に関する基礎的・基本的内容を身につけ、一連の内容を理解している。</li><li>・ 会計情報を活用し、有用な指針や結論を導き出すための方法・手段を習得を目指している。</li></ul>

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・課題の提出状況及び課題の内容
- ・授業の取り組み状況
- ・その他、授業進度に応じて実施した小テストの結果 など

1年間の評定は1学期から3学期の年間を通じて上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。授業成果の測定として日商簿記検定2級を受験します。

#### 6 担当者からの一言

「管理会計」は、今日の目覚しく変化する会計処理について、実践的に対応できるようにした科目です。

全員履修である「財務会計Ⅰ」「原価計算」の授業と並行して、管理会計という視点から会計をとらえ、より深く会計情報の活用を学んでいく講座です。

よって、前回までの授業内容が理解できている前提で授業を進めます。復習が十分にできていなければ授業についていくことはできませんので、毎日の復習および問題演習は必ず行うようにしてください。